

笛吹市立春日居小学校 令和8年（2026年）度 学校経営方針

I 学校教育目標

『心身ともに健康で 人間性豊かな子どもを育てる』

〈か〉 かんがえる子	〈す〉 すすんで行動する子
〈が〉 がんばりやりぬく子	〈い〉 いたわりの心をもてる子

II 目指す姿（子ども・学校・教師）

- (1) 目指す子どもの姿
 - ・自ら考えを持ち、協働しながら学びを広げる子ども
 - ・基本的生活習慣を身につけ、正しく判断し行動する子ども
 - ・夢や希望、目標を持ち、仲間と共にがんばりぬく子ども
 - ・健康で明るく、思いやりのある子ども
- (2) 目指す学校の姿
 - ・子どもが安心して、楽しくいきいきと学ぶ学校
 - ・地域の人的物的資源を活用し、保護者や地域に開かれた信頼される学校
 - ・学校の特色を生かした教育活動を行う学校 全校規模で行う教育活動の充実
- (3) 目指す教師の姿
 - ・愛情に満ち、子ども一人一人の個性を育む教師
 - ・高い倫理観、豊かな人間性、深い教養を備えた教師
 - ・使命と責任を自覚し、チーム春日居小の一員として協働して教育活動に取り組む教師
 - ・実践を通して、学び続ける教師

III 学校経営の重点

- (1) 知・徳・体の調和を重視し、「生きてはたらく力」を育む適切な教育課程の編制と実施に努める。【学校】
- (2) 確かな学力を育むため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業と評価に取り組む。【教師】
- (3) 「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実に向けたICTの活用と情報モラル教育の充実に取り組む。【教師】
- (4) 集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、自己の生き方についての考えを深め、将来の生き方の基礎を培う生徒指導に努める。【子ども・教師】
- (5) 体育・運動及び健康・安全に関する基礎・基本となる資質や能力の育成に努める。
【子ども・教師】
- (6) 安全・安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。【学校】
- (7) 教師の個性・特性を発揮し、特色ある学級及び学校づくりに努める。【学校】
- (8) 言語活動や体験活動を取り入れ、有用感もてる健やかな学びを保障する。特に英語に触れ合う活動を充実させる。
【学校・教師】
- (9) 特別支援教育を充実し、個々の豊かな学校生活を保障する環境を整える。
【学校・教師】
- (10) 集団生活の基盤である「あ・お・じ・そ」を、教育活動全般を通して日常的に意識させる。【子ども・教師】

〈あ〉 あいさつ	〈お〉 おちついた生活
〈じ〉 じかんを守る	〈そ〉 そうじをしっかりとる

IV 具体的な取組

(1) 「かんがえる子」を育成するために 《 知 》

- ・授業に取り組む姿勢（聞き方・話し方・発言の仕方等）を発達段階に応じて徹底する。
- ・「楽しい授業」「わかる授業」を念頭に置きながら、「やまなしスタンダード」の学習過程に則り、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を実践する。
- ・明確な授業のめあてや評価規準や評価方法を教師と児童が共有し、学習状況を的確に捉え、授業改善及び学習改善につなげる。
- ・ICTを活用した授業を積極的に行い、効果的な活用を実践すると同時に、情報モラル教育を充実させ、リテラシーの定着を図る。
- ・「校内研究」や「一校一実践、一人一実践」通じて課題改善に向けた実践を重ね、その効果を検証し、改善に努める。
- ・家庭学習の習慣化のため、一人一台端末を活用した発展的な自主学習を進める。
- ・多様な読書活動を推進し、読み聞かせ・朝読書などの取組を進める。
- ・実験観察や出前授業など、五感を使った体験活動を積極的に取り入れる。
- ・英語に慣れ親しみ、積極的に英語で会話できる環境を整え、充実させる。

(2) 「すすんで行動する子」を育成するために 《 徳 》

- ・「自ら考え、行動する」を目標に、学校生活の様々な活動から児童の自主性を伸ばす。
- ・個々の持つ自己表現力を高める場を設け、進んで表現しようとする態度を養う。
- ・日常の「あいさつ」を通して、進んで相手と交流する心の育成をめざす。
- ・明確な目的の下、児童会活動を充実させ、児童の主体性を育み、所属感や有用感を養う。

(3) 「がんばりやりぬく子」を育成するために 《 体 》

- ・基本的生活習慣の定着を図り、子どもたちの健康づくりに努める。
- ・運動の日常化を図るため、一校一実践の取り組みなどを通じて体を動かすことの楽しさや仲間と目標に向かって取り組む所属感・充実感を実感できる取り組みを進める。
- ・個々の能力にあった学習目標や生活目標を設定し、スモールステップで達成感が味わえるような教育活動を展開する。
- ・児童会活動と関わらせた清掃活動を充実させ、潤いのある落ち着いた環境づくりを推進する。

(4) 「いたわりの心をもてる子」を育成するために 《 徳 》

- ・生活の中でよりよい人間関係を構築できるような学級集団をつくる。
- ・学校、学級が、児童にとって自己存在感や充実感を感じ、安心できる居場所にする。
- ・望ましい集団活動の中で、進んで他者と関わり、児童同士の絆づくりができる場や機会を設ける。
- ・「あいさつ、聴き方、言葉遣い」の継続した取組を行う。
- ・児童の「所属感」「自己有用感」を高める取組をすすめる。
- ・保幼・小・中学校の連携をより意図的・計画的に推進する。
- ・問題解決や体験的な学習なども取り入れた「考え、議論する」道徳教育を行う。
- ・特別な配慮を必要とする児童にも適切な支援をし、全ての児童が生き生きと学校生活をおくるための体制と環境をつくる。

(5) その他

- ・学年会、主任会、各校内委員会を組織し、各教育活動と学校教育目標の関りを意識しながら児童の指導にあたる。
- ・大規模校という特色を生かし、全校規模で行う教育活動を充実させる。
- ・教職員の働き方改革を推進し、いきいきと児童に向き合える教職員集団を形成する。